

第68回定期大会

タクシー事業法実現と組織強化 奮闘を誓い合う

昨年を超える360名が結集し、役員を補充し運動強化の体制確率

2012年10月17・18日 全自交第68回定期大会を名古屋の名鉄ホールで開きました。



全自交労連は10月17～18日の両日、名古屋市内の名鉄ホールで第68回定期大会を開きました。「労働環境の抜本改善、産業の健全化をめざしタクシー事業法を実現しよう！」のローガンを掲げ、全国各地から昨年を上回る360名が参集し、終始熱気ある大会となりました。大会では労働条件の改善と事業の健全化のためにタクシー事業法実現に全力をあげる方針を確立しました。また、各地方の産別機能強化をめざしてブロック制の検討

・実施を決めるなど組織強化に奮闘することとしました。全自交労連本部専従書記次長2名を補充し、役員体制の強化をはかりました。開会挨拶に立った犬飼委員長は「難局を乗り越えるために大同団結する大会にしよう」とあいさつしました。議長団には本田有（中部）、板橋一信（近畿）の両代議員を選出しました。



伊藤実委員長から「第68回定期大会に、北は北海道から南は九州、沖縄まで全国から、多くの皆さんにこの名古屋にご参集頂き感謝申し上げます。この大会にご尽力を戴きました愛知地連、中部地協の皆様にお礼申し上げます。今日、明日と2日間よろしくお願いたします。また、後ほどご紹介しご挨拶をお願いしたいと思っております。お忙しい中、来賓の皆様にはお越し頂いております。組織を代表し御礼申し上げます。昨年の震災から1年7ヵ月経過しましたが、復旧復興が思うように進んでいません。震災の関係死が後を絶たない被災地の方々、精神的な面においても精神面も含めて厳しい状況に置かれていま

す。とりわけ福島の方については原発事故により日々の生活も放射能の危険にさらされていますし、16万人の方々も故郷に帰れない、家族バラバラの生活をしなければならないといった辛い思いをしている方も数多くいらっしゃいます。震災後、絆とよく言われています。家族の絆、地域の絆が失われてしまったということで、原発は一度事故が起きれば安全とかなんとかではなく、とんでもない被害になってしまう。多くの人々の生活を破壊してしまう。



やはり我々、今後、平和フォーラムと連携しながら、私たちは脱原発の運動を進めていかなければならないのかと悩んでいるところなんです。復旧復興にむけてまだまだ時間がかかりますし、復興予算がひどい使われ方がしております。やはり一人ひとりが関心を持った中、風化させることなく心に寄せていくことが必要なのかなと感じているところでございます。三年前、多くの国民が約束した政治改革をしてください。また小泉、竹中の構造改革によって拡大した。格差や貧困の問題に対し、改革してくれるのではないかと民主党政権が誕生し、民主党政権に期待しました。良くなったことも多々ありますが、野田さんになって消費税増税、大飯原発再稼働、オスプレイの普天間配備など民意をくみ取らない強行実施、そういった面においては期待とは裏腹ですが、では、自民党政権でいいのかとなると、そうは思いません。安倍さんが新しい総裁になりましたけれど、集団自衛権の問題を含めて改憲論者だし、取り巻いている人たちも規制緩和論者、また、領土問題、今、きな臭い時に危険な人が総裁になったなと悩んでいるところなんです。いずれにしても、私ども全自交、近いうちに行われる解散間近と言われる衆議院解散選挙、来年夏の参議院選挙においては、働く者の立場に立った政治を実行してくれる人を支持していきたいと考えていますので、皆様方のご理解をお願いしたいと思っています。

タクシー事業法についてですが、9月8日閉会した通常国会成立に向け取り組んできただけに残念な状況となってしまいました、2002年に改正道路運送法が施行されたことでタクシーの台数は増え続け、低運賃競争もまた繰り広げられ、タクシーの事故も急増しました。4月の終わりからのゴールデンウィークにあった高速ツアーバス事故もそうですが、やはり適切な労働環境が担保されない中で公共交通に一番必要な安全が脅かされてしまったと思っています。我々全自交は規制緩和の弊害を正すために裁判闘争を始め、粘り強く運動を進めていた中で、3年前、特措法を施行させることができました。不十分ではありますが、減休車を含めた取り組みも行われ、全国で25000台強の車が削減されております。

下限割れ運賃についても自動認可運賃へと修繕されてきておりますので評価はしているところではありますけれども、やはり肝心の乗務員の労働条件の改善には結びついていません。あくまでも規制緩和によってめっちゃくちゃとなったハイタク産業に対する応急処置ということで、限界があります。公正取引委員会による新潟のカルテル問題、また、大阪の加重罰取り消しを認めた判決、象徴的なことだと思っていますし、だからこそ私たち労使同士が民主党タクシー政策議員連盟の先生方をお願いし、検討重ねてきたのがタクシー事

業法案であります。需給と運賃、また労働条件に組み込んだ我々の思いが込められたものとなっています。3月7日、上旬に行われた民主党タクシー政策議員連盟の総会では法案要綱が確認され、期待が膨らんだところですが、やはり衆参ねじれの中では自民党の理解を得なければ成立は難しいといったことで、今日お越しいただいている民主党タクシー政策議員連盟の会長である細川先生にお願いし、自民党タクシー議連の金子会長のほうに民主党案の打診をしていただきました。なかなか帰ってこない、8月8日ようやく特措法の一部改正案という自民党案が示されました。我々特措法に限界があるからこそ事業法の成立に向け努力してきましたし、自民党案、独禁法の適用除外になっておりますが、減車についての道筋は不透明、実効性についてもうかがわしいと思っています。また運賃についても特定地域とそうでないところの異なった価値判断の基準を使い分けることの問題が生じることがあります。一番の問題は特定地域でなくなったとたん、元に戻ってしまい、また、新規参入、増車、低価格競争といったもとのもくあみに戻ってしまいます。9月の中旬ですか。ハイタクフォーラムでの代表者会議を行った中で、今後どうしようか協議しました。我々は「タクシー事業法」案は、民主党案の実現にどりよくを確認しました。また、交通基本法においても採決まで行きましたが参議院で問責が確認され、継続審議になっておりますが、事業法、基本法、我々の将来を築いていく早期実現に向け、運動を強化していかなければなりません。昨年盛岡大会を旧東京地連が委員長選挙をめぐり大会をボイコットした組織問題が浮上しました。この1年皆さん方には大変後心配をおかけし申し訳なく思っています。今回の根は、規制緩和と長期にわたって景気の落ち込み、地方が疲弊している中で、何とか支えようと頑張っていたことに対し東京は「東京さえよければいい。東京で決めたことに地方は黙ってついてくればいい」とする驕りに対して、地方の人達の怒りが爆発したものと受け止めています。全自交は全国組織です。それぞれ地域の実態があります、地域実情があります。お互い立場を尊重しながら運動を進めていく事が組合民主主義です。新の団結がうまれると思います。今回旧東京地連と袂を分つという事態になりましたが、全自交事態は風通しが良くなったし、団結が強くなったと思います。今年ハイタク生誕100年であります。ハイタク乗務員の年収が30年前の厳しい状況になっております。タクシー生誕200年に向けて一歩でも二歩でも前進させ働き甲斐のある産業にしていかなければなりません。執行部頑張っていきます。共に頑張りましょう。



震災復興・雇用の安定・貧困と格差関連法案の成立
ハイタクは道路運送法の改正による適正な規制強化
競争は平等な中でどう闘ったかと言う事が大前提



今後事業法成立に社民党は全力で取り組む
タクシーの現状を知る者としてタクシー事業法の成立
政治もみなさんの運動で変えていくことが出来る

松永書記長は方針提案で「特措法下で一定の減は進んだが適正車両数との乖離はまだまだ大きい」「減車しない事業者との不平等感も強まった」としてタクシー事業法を早期に成立させ労働条件を抜本的に改善する運動に全力をあげることを訴えました。また、「全国各地の産別機能を強化し組織拡大を実現しよう」と提案しました。近年にない活発な質疑討論を経て①特措法の目的完遂で賃金労働条件の改善、②タクシー事業法を制定し、需給と運賃の適正化、③中央・地方における産別機能強化、組織拡大の方針を決定しました。

また、役員補充で空席となっていた書記次長2名を補充することとし、副委員長に森茂（岩手）、書記次長に高橋学（秋田）森田貫二（大阪）が選出されました。

中執には、澤田修二（千葉）、根本英夫（埼玉）、直井幸男（東京）、斉藤長（東京）福井明男（神奈川）、杉山隆司（愛知）、中出幸一郎（福井）、松本英樹（長崎）の8名。会計監査には藤田健一（東京）が新たに選出されました。

新しいメンバーが新任役員として加わり、新たな全自交運動を進めていく



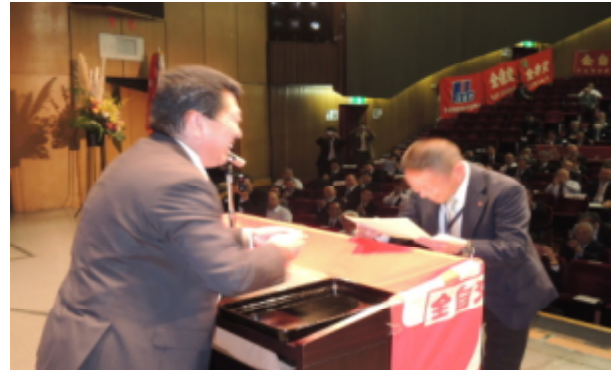


難局を乗り越え大同団結を図る大会にしよう



犬飼政則 全自交労連副委員長より「各単組
であいさつをしますが、この産業は暗い話
が多いです。年収が平均いくらだとか、年
収200万円以下の県や地域が5箇所もあ
るんですよとか、いろんなことをいうの
ですが。大きな単組にいきますとこうい
う話を絶対しなくてはいけないと思っ
てことがあります。やはり大手、私鉄系
になると年収400万円を超える会社
がいっぱいあります。

そう言うところでは「年収が290万円位
なんですよ」という話をしないと、ピン
とこないのです。めでたい大会で暗い話
をしてはいけないと思うのですが、どう
しても暗い話になってしまいます。各地
域の全自交の仲間の奮闘にもかかわらず
タクシー労働者の生活は厳しいです。こ
の難局を乗り越え、真にタクシー労働
者・自教労働者の大同団結を図る大会
にしましょう。



祝電・メッセージ ありがとうございます。



【友誼組合】

私鉄総連、交通労連、都市交、運輸労連、JR連合、
JR総連、航空連合、港運同盟、労供労連、UIゼ
ンセン同盟、電機連合、JP労組、日教組、全水道、
自動車総連、サービス連合、全国ガス、JAM、フ
ード連合、紙パ連合、JEC連合、全造船機械、国
公連合、全印刷、生保労連、森林労連、全造幣、電

力総連、全電線、全国ユニオン、印刷労連ゴム連合、全国農団労、労済労連、全労金、ヘルスケア労協、サービス・流通連合、NHK労連、海員組合、



【衆議院議員】

細川律夫、吉田おさむ、田島一成、阿久津幸彦、高木義明、高橋英行、大島章宏、村井宗明、梶原康弘、三日月大造、吉田統彦、辻元清美、服部良一、重野安正、吉泉秀男

【参議院議員】

谷博之、相原久美子、梅村聡、平田健二、高橋千秋、辻泰弘、福島みずほ、吉田忠智

【諸団体他】

フォーラム平和・人権・環境（平和フォーラム）、全労済本部、中央労金渋谷支店、連合会館、国際労働財団、広報ブレイス、内村物産